

普及を見直そう



吉田 勉

オリエンテーリングの普及活動はあまりうまくいっていない。競技登録者が増えないことを見れば明らかである。

普及の為の努力が行われていないわけではない。クラブ等の努力によって、オリエンテーリングへの「入り口」である体験会はしばしば行われている。しかし、それらは単発で、そこから愛好家という「部屋」へ至る「廊下」、すなわち競技指導が用意されていないため、ほとんどの参加者が部屋を見ることなしに退出していつてしまっているの

である。現在、入り口と廊下がともに存在するのは学生クラブの新歓とその後の競技指導であり、それが競技人口を維持している唯一のチャンネルといっても過言ではない。

なぜ学生クラブにできて地域クラブにできないのであろうか？

私の子供が所属している少年野球クラブでも、少子化のなかご多分に漏れず子供の数を集めるのが大変である。ポスターを張ったり、体験会を開いたりするが、まずそれだけでは人は集まらない。土日しか練習はないのだが、貴重な練習時間を割いて、この春だけでもすでに3回都合6回ほど体験練習会を行う予定である。まさに保護者総動員である。一人を勧誘することによってどれだけ一所懸命になれるかということ、そうしてまず友達になることそれが仲間を増やすために必要なことである。クラブ員が自分たちだけで楽しんだり、大会に参加するばかりで初心者を喜ばせる努力をしなければ(仲間作りが楽しいと思えなければ)人は増えるはずもない。それを学生クラブはやっている

る。春先に学生の大会参加が減るのはそういう理由である。

地域クラブを非難しているわけではない。地域クラブが地道に活動しているからこそ、各地域で安定的にオリエンテーリングが実施できていることを忘れてはならない。クラブが広域化してしまっただけで地域活動がやりづらくなっている事、指導のノウハウがない事、教えることで仲間を増やす楽しみを経験してないことなど、育成ができない要因はいくらでもある。ただ、今現在、地域クラブがクラブ員を増やすということは、すなわち自前で育てるのではなく、学生クラブで育ててもらった経験者を集めるということになってしまっている事は認識すべきである。そしてそれはクラブ活動のもっとも楽しい一面を放棄してしまっているとも言える。

多くの経験者が教えることができるようになる為、指導法を考え、指導できる人を増やしていくことは重要である。そのための1歩がオリエンテーリング教本の作成であった。しかし、それには時間がかかる。

一方、普及活動の促進は待ったなしである。これから時間をかけて新たなものを作るのではなく、今あるリソースを使って「廊下」を作るためには、毎週のように行われている大会をうまく活用すべきである。しかし、残念ながら今のままでは使えない。

まず一番の問題は、各大会でのコースのレベルが年齢や体力を意識した適切なものでなく、かつ統一されていないことにある。同じクラス名でもコースセッターの考えで難易度が大きく異なっている。自己反省も含めての事だが、大会のコース作成においてコースセッターは初級・中級クラスのコースに多くの労力を割くことはほとんどない。まず最上級クラスありきになってしまう。前回は簡単に回れたから大丈夫と思って同じクラスに出たら今回は2時間以上かかってしまったなんてことは日常茶飯事である。

これでは安心して大会にエントリーすることはできないし、大会に誘う方もどのコースを薦めて良いかわからない。

まずは、すべての大会でコースのレベルが一定になるように努力すべきである。オリエンテーリング指導教本では各年代であるべきコースの内容についてレベルに分けて触れているので参考にいただきたい。独自のコース名でもレベルX相当などと書いていただければ、コースの選択が容易となる。

次に問題となるのがこの年齢別クラス分けである。年齢別システムはもともと年少から始める人が多く、クラブや学校での指導も充実している国のシステムなので、日本の現状とは合わない。教本に即してコースを組んだところで、年配の方が初めた場合はBクラスとAクラスの技術差が大きく、なかなかAクラスへとステップアップできない。こうした大人の初・中級者の為にも、選手権大会や公認大会以外の大会を、オリエンテーリングの仲間を増やす普及の為の大会として位置づけ、レベル別のクラス分けを導入し、適切な技術のコースを選べるようにすべきである。

普及の為の大会では、レース後に各コースの攻略法などを記した地図を張り出したり、コースを短めに設定して経験者と初級者が一緒に練習できる時間帯を設けるというのも有効であろう。

年少クラスでは、事前にコースを公開して、あらかじめ走りかたを検討していいことにしても良い。これならば親も引率者も安心して子供を個人レースに出せるようになる。

会場に箱庭コース(教本参照)などを用意して、正置の練習をさせる。会場周辺のミニコースを出走前に回らせ、その後に質問を受けて指導するなどの工夫も考えられる。

もちろんご褒美も大事なので、初心者クラスには完走者全員(子供だけでも)に参加賞をだし、表彰は年齢ごとに行うなどをするとよい。

既成概念にとらわれなければできるとはいくらでもある。

公認大会や選手権大会では競技性が大事な事はいうまでもない。一方で地域クラブは大会開催そのものを、仲間を増やす機会ととらえて、競技性を一部犠牲にしても、普及・指導重視の運営へと切り替えるという発想の転換が必要である。

(吉田 勉)